

# データ取得の体系化

## ー農業・農村地理学のフィールドワークー

報告者：田林 明

1. 富山県黒部川扇状地の農村変貌に関する調査の手順
2. 山形県朝日町におけるエコミュージアムによる地域振興に関する調査の手順
3. 茨城県守谷市における新しい都市景観の形成に関する調査の手順

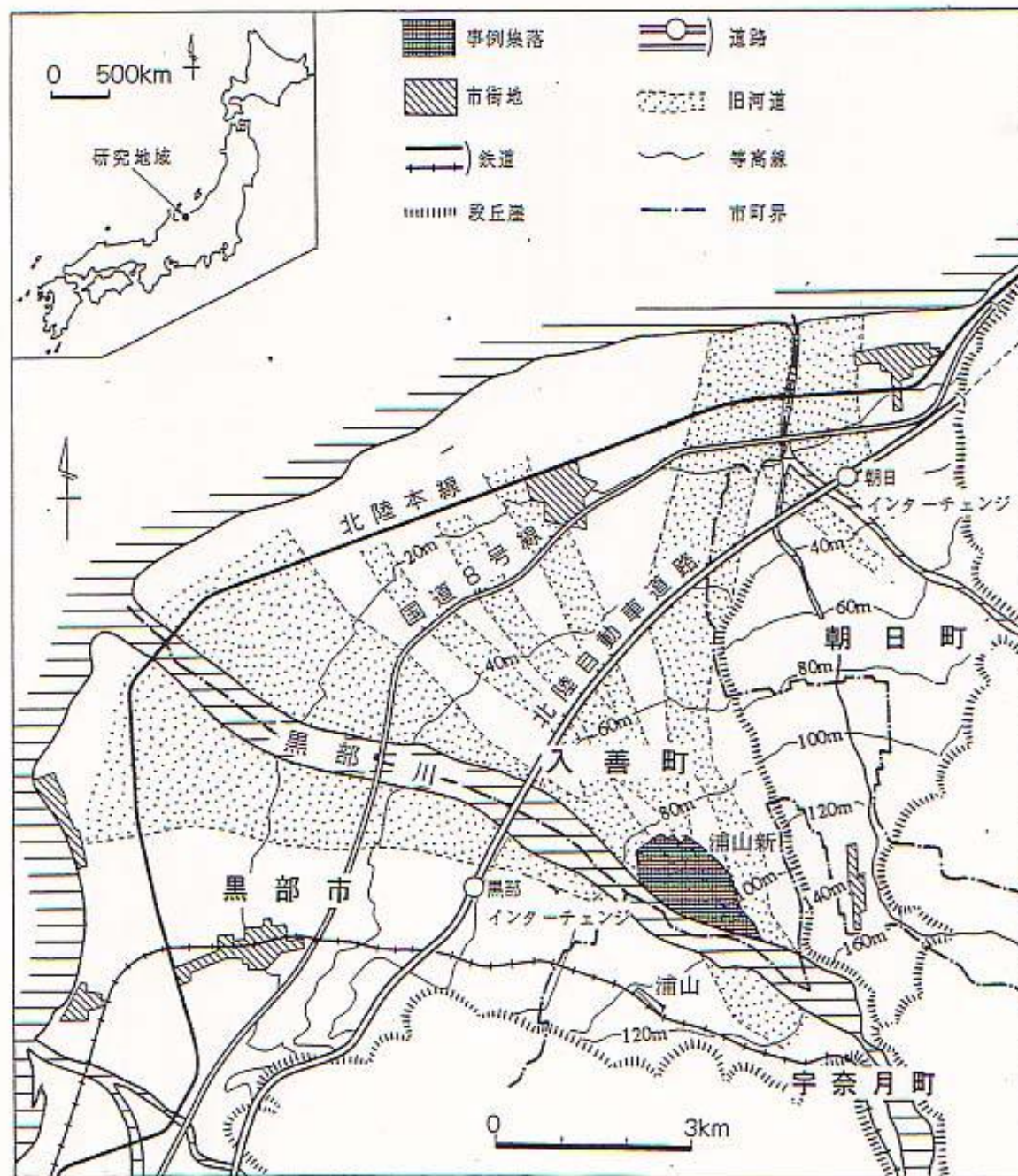


図1 黒部川扇状地の旧河道と入善町浦山新地区の位置

# 調査のプロセス(1)

- 農業水利の調査をやっていた。→うまくいかない。
- 農民は当面の関心事である圃場整備を語りたがった。
- 圃場整備による農村変貌を課題とした。
- 農業水利で調査した4つの集落の中から、圃場整備の時期が早く、親切な人がいる集落を選んだ。
- 土地改良区の地図を転写、空中写真を購入した。→地域の景観変化は比較的容易に把握できた。
- それを証拠だてる景観写真を撮影した。
- 闇雲に農家で聞き取りをやるが、農家の変化をどのように整理するかわからなかった。
- ある農家の事例が、農村変貌のイメージをつくってくれた。

# 調査のプロセス(2)

- 稲作の省力化(土地改良区)、チューリップ球根(球根農協)と酪農(酪農農協)の変化のデータを収集する。
- 就業構造の調査、1967年は役場の資料、それ以降は聞き取り調査による。データの整理と図化(Cloutのまねをする)。
- 就業の組み合わせとその変化という形で、農村変貌を記述した。
- 農外就業先のデータを役場で収集した。農外就業先(工場)での聞き取りを行った。
- 黒部川扇状地農村の事例が他の地域と比較してどのような特徴があるかを明らかにした。→日本の農村空間区分
- 既存のデータの整理により農村の変貌過程を提示した。



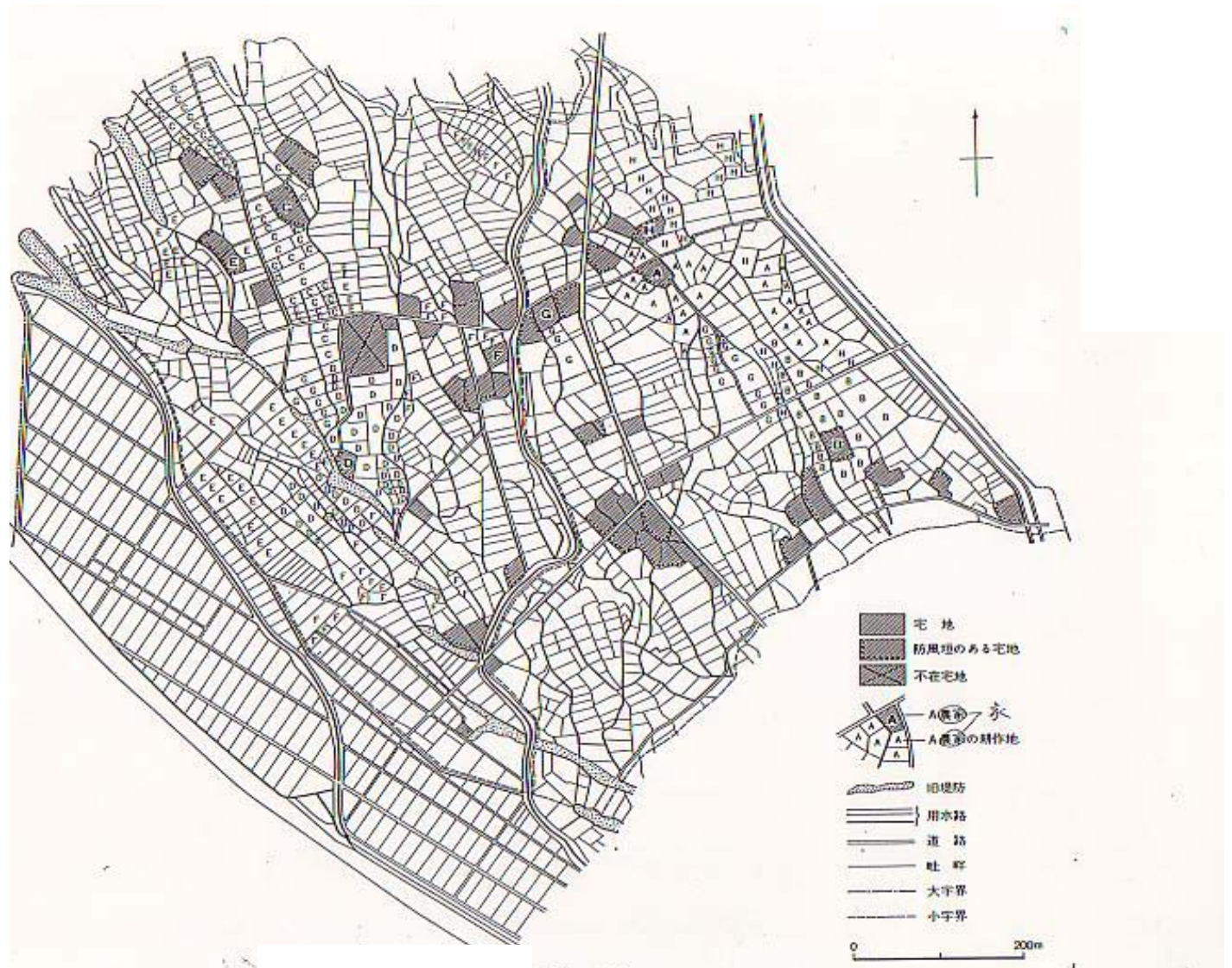


図2 入善町浦山新地区における圃場整備事業前の耕地と宅地(1964年)





図3 入善町浦山新地区における圃場整備事業後の耕地と宅地(1974年)



**1969年8月入善町  
新屋土地改良区撮影**



**1970年3月入善町新屋土地改良区撮影**



**1975年4月撮影**



**写真1 黒部川扇状地における景観変化**

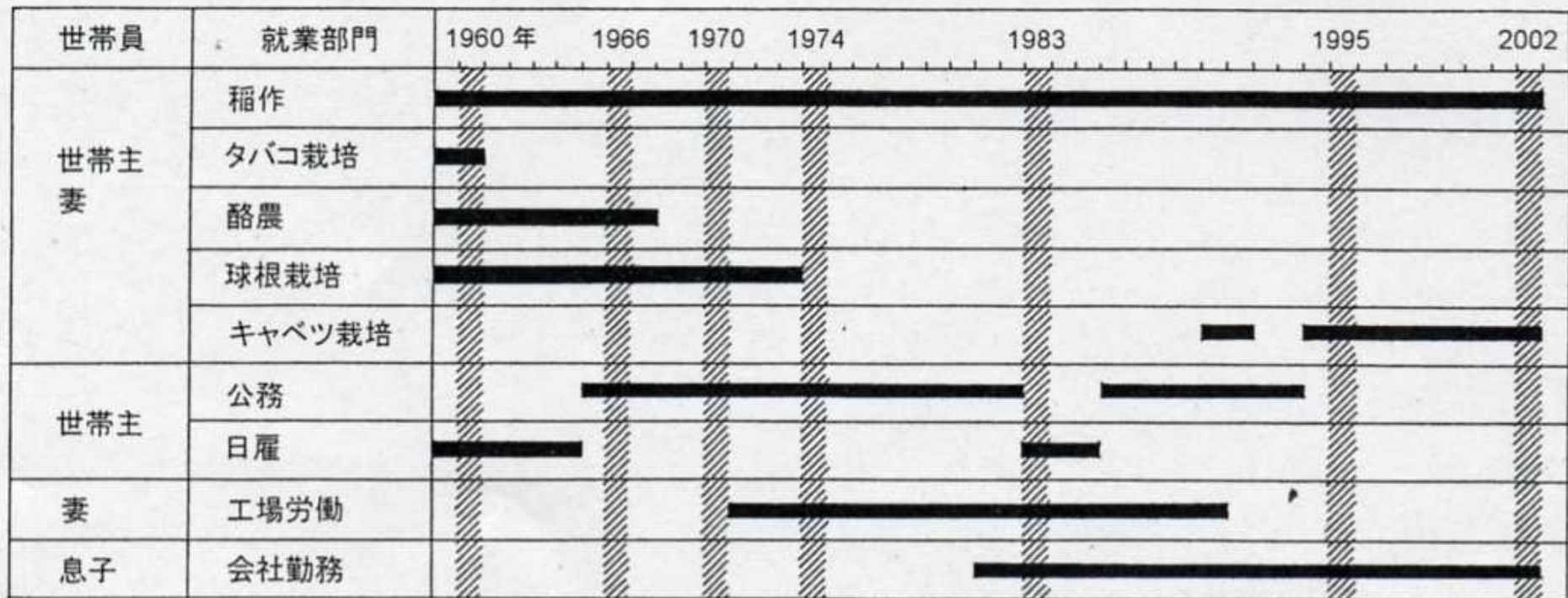




写真2 農村変貌のイメージをつくってくれた人(2002年8月)

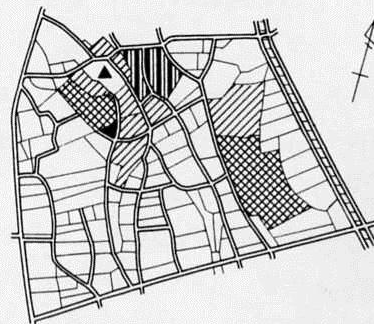


# 図4 黒部川扇状地における A農家の就業変化

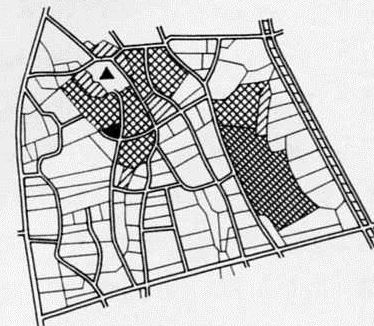


# 図5 黒部川扇状地におけるA農家の土地利用変化

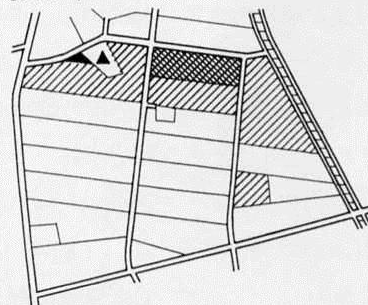
1960 年



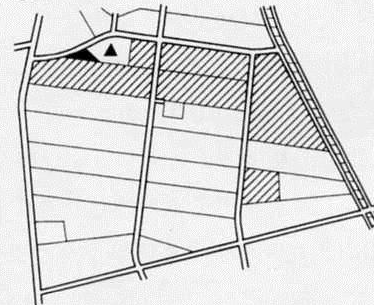
1966 年



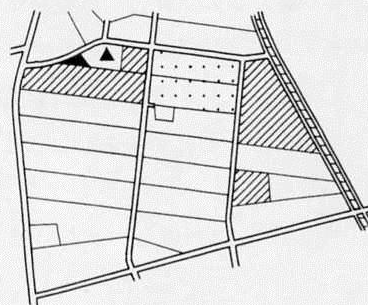
1970 年



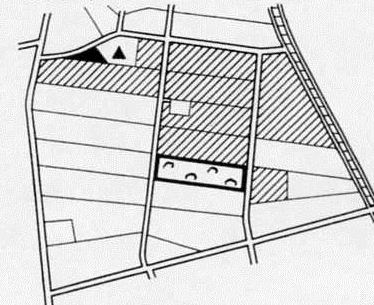
1974 年



1983 年



1995 年



2002 年

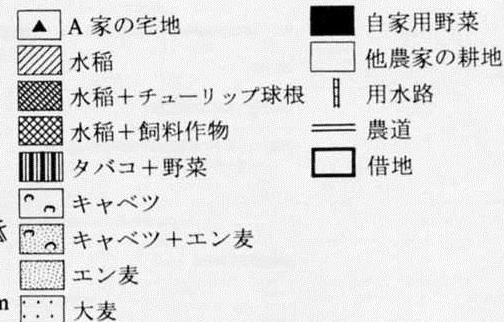
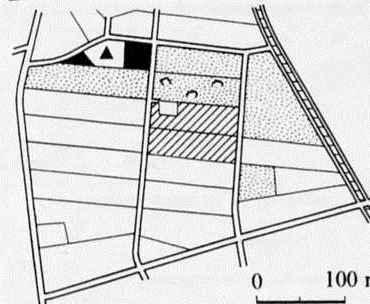




表2 入善町新屋地区における10a当り水稻作所要労働時間の推移

(単位：時間)

	1965年		1971年		
	新屋地区	富山県	新屋地区(平均)	新屋地区(最低)	富山県
種子予措	0.5 人 力	0.3	—	—	0.4
苗代一切	6.0 共同苗代	5.8	6.0 育苗室	4.0 育苗センター	4.7
本田耕起地	11.5 人 力, 耕耘機	18.6	5.1 人 力, トラクター	2.1 人 力, トラクター	11.1
元 肥	3.7 人 力	7.1	1.7 人 力	1.2 人 力, 撒布機	3.9
田 植	22.7 共同・人 力	19.6	8.5 人 力, 田植機	7.0 田植機	15.7
追 肥	2.0 人 力	1.0	3.3 人 力	3.0 人 力	1.6
除 草	58.0 人 力	18.1	22.3 人 力, 除草剤	6.3 除草剤	9.1
灌排水管理	60.0 人 力(1日2回)	17.3	27.5 人 力(1日1回)	15.0 人 力(2日1回)	12.6
防 除	4.5 撒布機	3.5	4.5 撒布機	2.0 撒布機	2.2
稲刈・稲こき	24.0 人 力, 動力脱穀機	51.3	7.0 小型コンバイン	2.0 小型コンバイン	28.2
もみ乾燥	5.7 乾燥機, もみすり機	6.2	5.7 乾燥機, もみすり機	0.4 ライスセンター	5.3
合 計	198.6	148.8	91.1	37.3	94.8

(入善町新屋土地改良区資料および富山農林水産年報により作成)

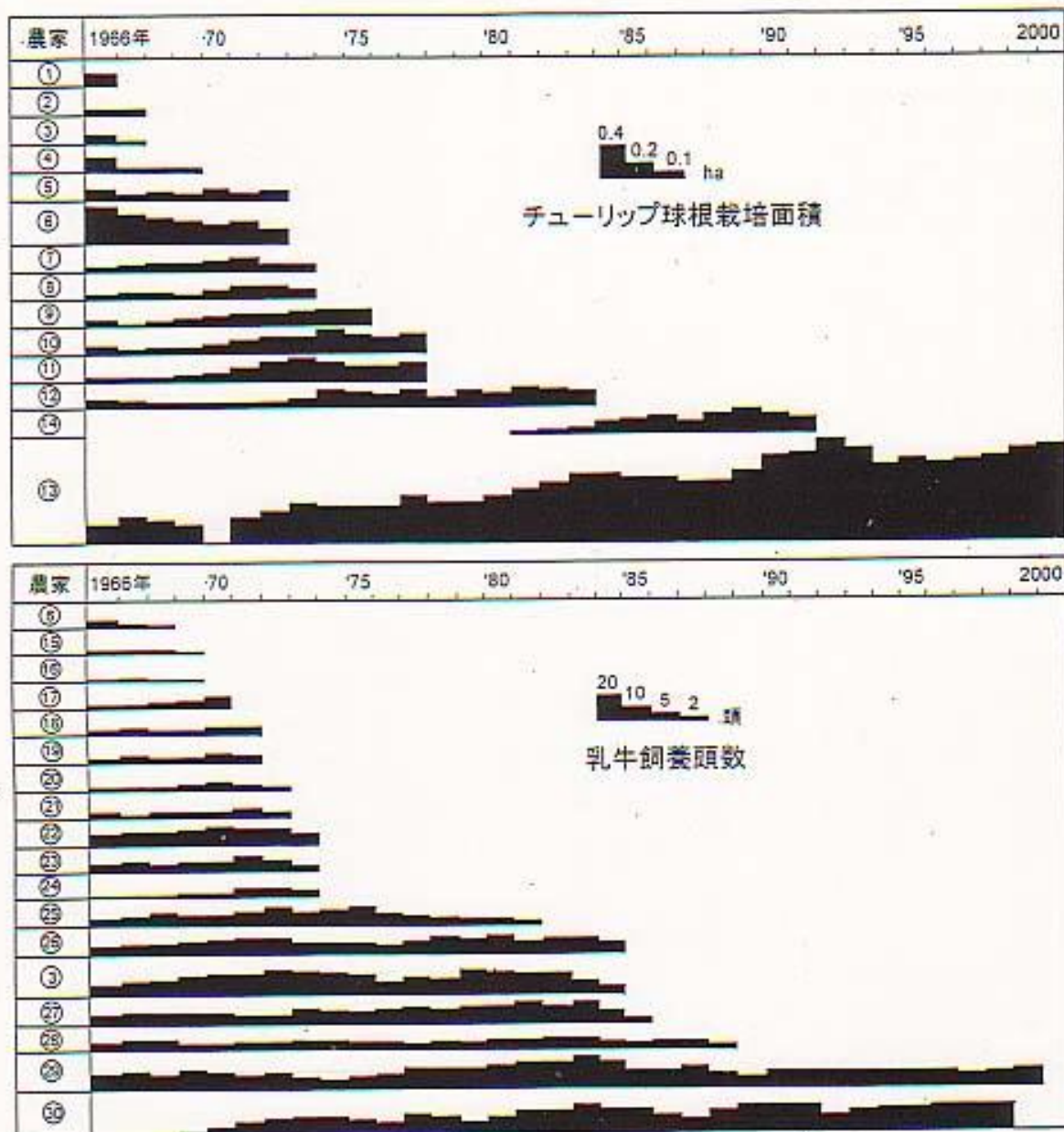


図6 入善町浦山新地区におけるチューリップ球根栽培と酪農の推移



# 図7 就業調査

- ・1967年度は役場の資料
- ・1972年以降は聞き取りによる

① 小野寺 (男)	主 49 建設つてめ + 兄 妻 43 社長 (子計 - 1967) + 兄年法 父 67 兄 年法 母 66 兄 年	小野寺 1.7, 0.03, 1.8
② 佐々木昭太郎	主 51 会社社長 (佐々木工業) + 妻 (1972) 信託 妻 50 会社役員 + 兄 子 26 会社 子 24 主婦 母 75 年 父 72 年 佐々木工業 母 78 年 会社	佐々木 0.1, 0.3, 1
③ 千手 勲	主 47 妻 44 父 79 母 74 年法 1957	千手 6.7, 0.1, 6.8
④ 佐々木 昭夫	主 45 年 妻 41 JA 社長 + 兄 父 60 年 母 68 年	佐々木 + 昭夫 172 (124)
⑤ 千手 勲夫	主 60 年 + 妻 小通内信 (パート) 妻 58 年 年法 子 26 年 小通内信 27 年 + 兄 年法 子 26 年 7 年 + 兄 年法	千手 2.0, 0.2, 0.2

# 表2 入善町浦山新地区における農家の就業構造の変化

		単位：戸（％）				
就業の組み合わせ		1967 年	1972 年	1983 年	1994 年	2002 年
農業中心	農業	16(15.1)	1( 1.0)	5( 4.6)	6( 5.7)	5( 4.7)
	農業＋出稼（日雇）	37(34.9)	23(21.9)	9( 8.3)	6( 5.7)	4( 3.7)
		53(50.0)	24(22.9)	14(13.0)	12(11.3)	9( 8.4)
兼業中心	農業＋出稼（日雇）＋会社勤務（公務・団体勤務	25(23.6)	33(31.4)	24(22.2)	26(24.5)	16(15.0)
	農業＋出稼（日雇）＋会社勤務＋公務（自営）	0( 0 )	4( 3.8)	7( 6.5)	6( 5.7)	5( 4.7)
	農業＋会社勤務（公務、自営）	21(19.8)	36(34.3)	49(45.4)	40(37.7)	48(44.9)
		46(43.4)	76(69.5)	80(74.0)	72(67.9)	69(64.4)
非農家	会社勤務、公務、自営、その他	7( 6.6)	8( 7.6)	14(13.0)	22(20.8)	29(27.1)
合 計		106(100)	105(100)	108(100)	106(100)	107(100)

聞き取りにより作成



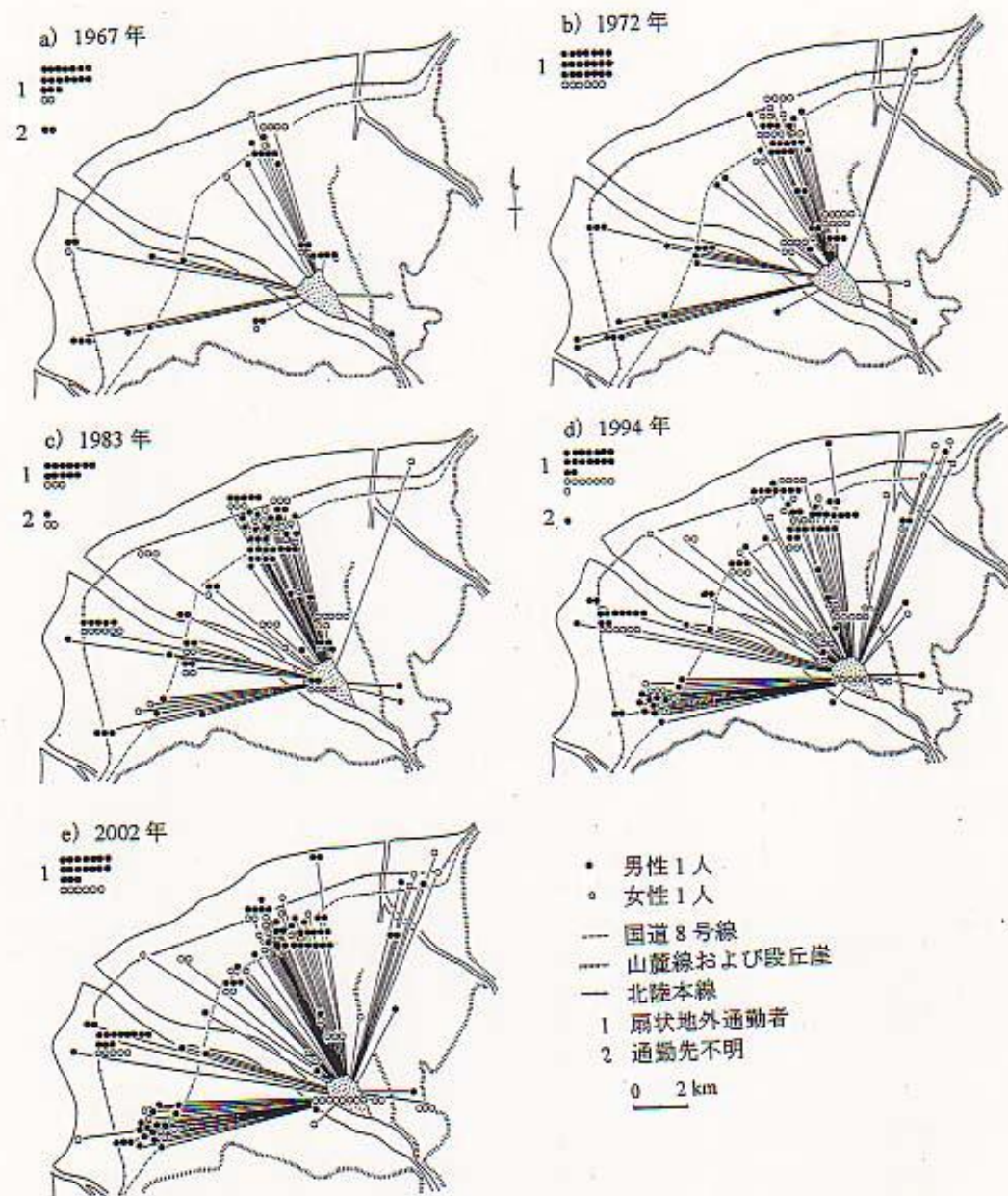
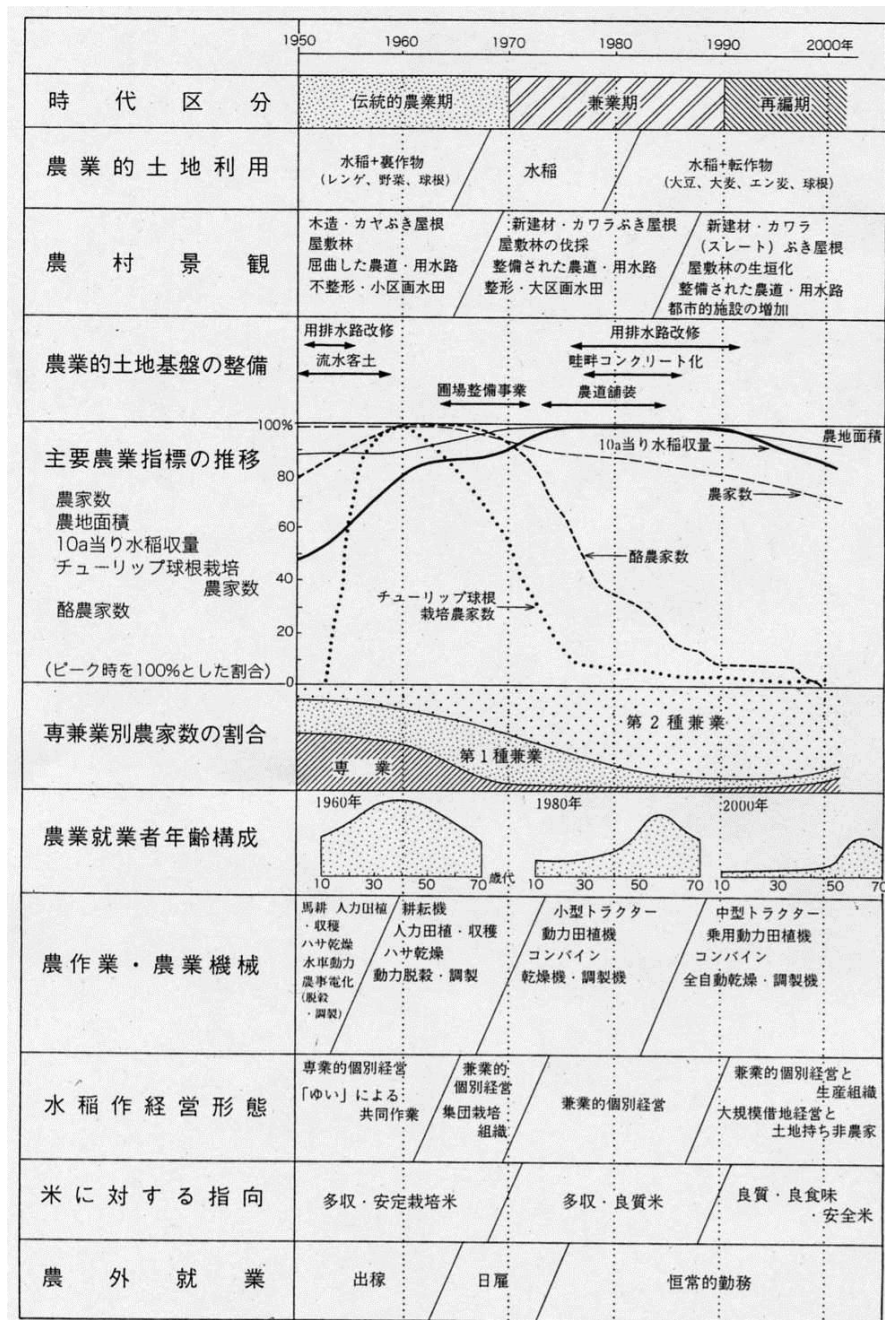


図8 入善町浦山新地区住民の農外就業先

# 図9 黒部川扇 状地における農 村変貌の過程

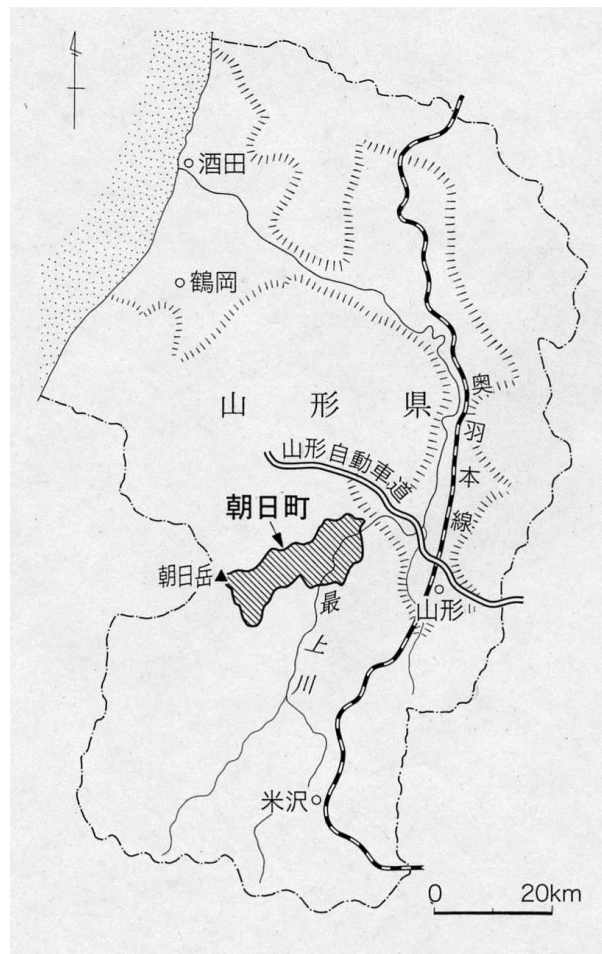


# 次の展開

- 就業構造からみた日本の農村空間区分(山本正三先生のアイデア)
- 黒部川扇状地の水稻作の変遷
- 黒部川扇状地のチューリップ球根栽培の分布変化
- 黒部川扇状地のコミュニケーションと公民館
- 黒部川扇状地の地域構造
- 1990年代以降の農村変貌(脱農化)
- 農業の担い手(集落営農・大規模借地経営)
- 農業・農村維持にとってのコミュニティの役割(持続的農村)
- 農村空間の商品化(フィールドミュージアム)



# 山形県朝日町におけるエコミュージアムによる地域振興に関する地域調査の手順



- エコミュージアムの経緯
- エコミュージアムの構成(エリア、コア、サテライト)
- エコミュージアムの組織と運営
- エコミュージアムと地域との関わり、エコミュージアムの地域での役割
- エコミュージアムの将来

# 調査のプロセス

- エコミュージアムの先進事例として有名な山形県朝日町におけるエコミュージアムによる地域振興の状況を知りたい。
- 朝日町のエコミュージアムについての文献やウェブサイトを目を通す。
- 主要な組織・施設へのアポイントメント
- 調査日程、調査項目、収集したい資料の整理
  - 朝日町エコミュージアム協会 安藤竜二副理事長
  - 朝日町観光協会 亀井秀介氏
  - 朝日町教育委員会 白田征治主事、高橋さだ子係長
  - 朝日町政策推進課 松田勝美主査、清野直治課長
- 現地での調査(予備調査)
  - 上記の聞き取り、コアとサテライトでの観察と聞き取り、資料収集

# エコミュージアムの経緯

- 1989年 家族旅行村「朝日自然観」開設
- 1989年 エコミュージアム研究会設立
- 1991年 第3次朝日町総合開発基本構想・基本計画策定  
この間、様々なシンポジウム開催
- 1999年 エコミュージアムガイドの会(町の案内人)設立
- 1999年 NPO法人朝日町エコミュージアム協会発足
- 2000年 第4次朝日町総合発展計画策定
- 2000年 朝日町エコミュージアムセンター「創遊館」開設  
この間、エコミュージアム普及事業、エコ紀行、シン  
ポジウム、ワークショップ
- 2008年 第5次朝日町総合発展計画策定



# エコミュージアムの構成と活動

## 写真3 コア(核)





写真4 サテライトエリア：大沼浮島とその周辺





## エコミュージアムの構成と活動

# 写真5 サテライトエリア:朝日町ワイン工場





## エコミュージアムの構成と活動

# NPO法人朝日町エコミュージアム協会

理事12人、監事1人、正会員32人、賛助会員32人

団体賛助会員5人、朝日町エコミュージアム案内人の会 17人

会費18万円、頒布物収入10万円、寄付金5万円、エコルーム  
業務受託費(朝日町より)200万円、案内人の会事務3万円

### 調査・資料事業

聞き取り調査、資料の保存と作成

### 普及事業・展示

展示、資料の出版と頒布、催事事業、サテライト事業、案内  
事業、広報事業

### 運営事業

## エコミュージアムの活動

聞き取り調査、見学会

朝日町の宝探し(町民・小中学生から700の蓄積)

エコミュージアムノート(調査報告書を月2回全戸配布)

展示パネル

シンポジウム、パネルディスカッション

エコミュージアムの小道(ガイドブック)の作成

# エコミュージアムの効果

地域全体を博物館として、そこから資源を発見し、学習してまちづくりに活かす、また地域の誇りを発掘して学ぶというエコミュージアムの発想は、朝日町の場合は農山村の地域資源を主な対象としているだけに、農村空間の商品化と同質であるとみなすことができる。20年間の朝日町エコミュージアムの取り組みによって住民の意識は確実に変化してきており、その蓄積をいかに住民と行政が地域づくりに活用するかが、これからの課題である。



# これからの調査について

- 本調査を行う。

エコミュージアムの経緯、エコミュージアムの構成(エリア、コア、サテライト、発見の小径、アクセス道路)、エコミュージアムの組織と運営についての詳細な調査を行う。
- エコミュージアム活動に関わる人々とその活動。
- エコミュージアムと地域との関わりを、地域住民の側面から調査する。事例集落を取り上げる。
- 公民館体制を通したエコミュージアム活動。
- 地域の主要産業とエコミュージアム活動。

りんご栽培(りんごプロジェクト)、ワイン産業、観光業
- エコミュージアムが地域振興に果たす役割。

# 写真6 公民館活動を通じてのエコミュージアム活動 —中央公民館・地区公民館・自治公民館の三重構造—



# 茨城県守谷市における新しい都市景観の形成に関する調査

- つくばエクスプレスの開業にともない、守谷駅周辺が再開発され、どのようにして都市が形成されるのかを観察する絶好の機会を得た。
- 2005年8月から1年に一度は守谷駅を中心とした約1.5km四方の土地利用調査と写真撮影をして、継続的に調査・観察をすることにした。
- 初年度はベースマップに都市計画図を使用した但、翌年からゼンリンの住宅地図(1500分の1)を用いることにした。
- 1回の調査に4日程度が必要。
- 用途、階数、駐車場(時間貸しの料金別、月極の別、舗装か未舗装)の記録をした。



# 写真7 2005年8月 における守谷駅 北側の土地利用



# 写真8 2006年8月 における守谷駅北 側の土地利用





# 写真9 2007年12月における守谷駅北側の土地利用



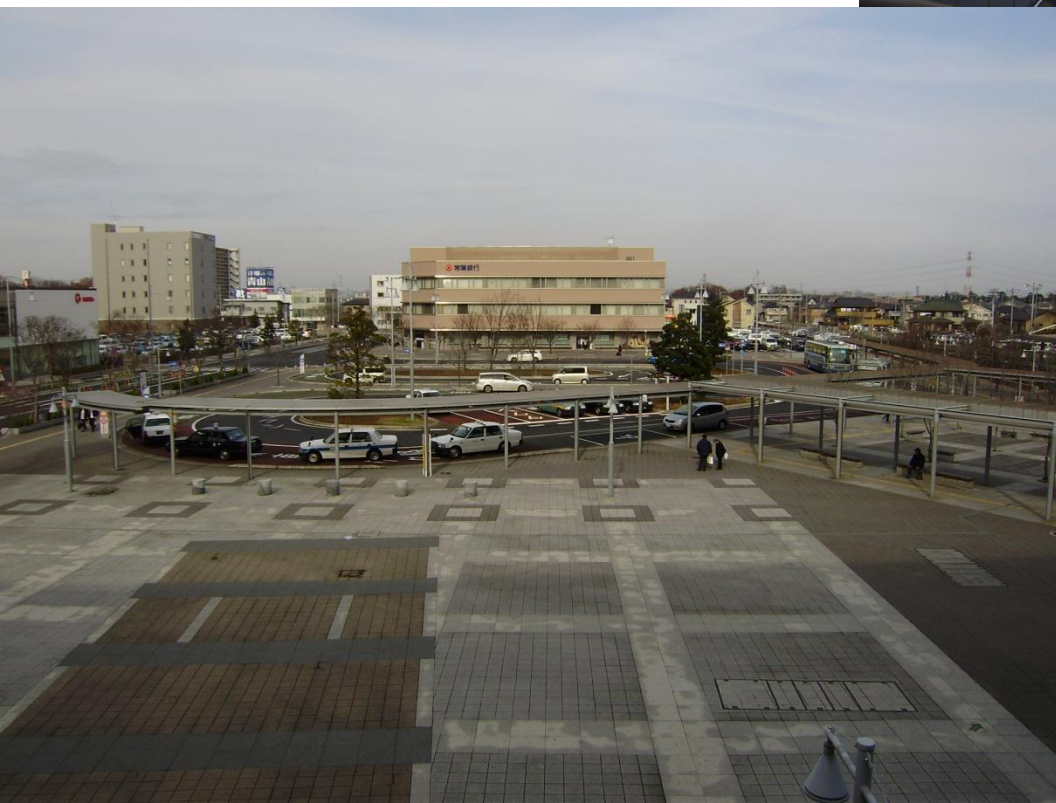


# 写真10 2008年12月における守谷駅北側の土地利用





# 写真11 2009年12月における守谷駅北側の土地利用



# 写真12 2010年12月における守谷駅北側の土地利用



# これからの調査について

- 土地利用調査の継続(2011年以降)
- 景観記録の継続(2011年以降)
- 開発以前の土地利用の復原(1999年頃)  
ゼンリン住宅地図、2.5万分の1地形図、空中写真
- 土地利用図の清書(種目別、建物階数、駐車場)と土地利用の分析
- 土地開発計画とその実施に関する資料収集
- 開発主体(市役所、耕地整理組合など)からの聞き取り
- 住民の動向  
旧住民の動向、新住民の転入状況
- どのようにして都市は形成されるか  
空き地、駐車場、高層化、業種変化